

ひろばちがさき

NO. 1080

新政ちがさき

2015年2月13日

茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1市役所内 0467(82)1111

新政ちがさき有志
 岸正明 87-8766
 こいそ妙子 52-6731
 和田清 84-9969
 よしかわ和夫 86-0032
 早川ひとみ 52-8361

来年度予算要望市長より回答第2弾！

前号に引き続き、予算要望回答第2弾をお送りします。

●都市・生活環境整備について
 ①未整備雨水幹線整備を加速し、枝線(面整備)整備を行い、いっ水を解消すること。

【答】市内の雨水幹線整備率は94%、面的枝線の整備率は約52%である。

今後は、浜竹雨水幹線、萩園第2-1・2雨水幹線の整備を行う。枝線(面整備)は、狭隘な道路内にガス管や水道管などの地下埋設物が錯綜し、整備に時間を要するが、整備を推進しつつ水の軽減を図る。

②私道や傾斜地等のいっ水対策未整備地域では、周辺住民の意向を聴取し、早急に対応すること。

【答】私有地等の施設は、整備維持管理を土地所有者・利用者が行い、市で行う予定はない

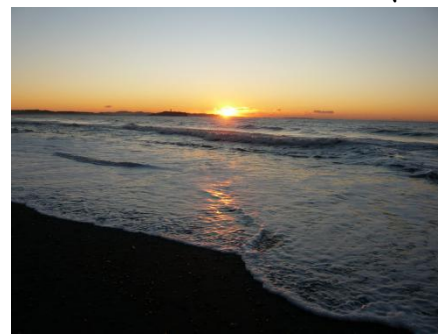
が、公道部の溢水解消で私有地等の溢水軽減も図れるので公道部の溢水対策に取り組む。



③浸食対策など海岸整備を県に働きかけること。サザンビーチ海水浴場付近にトイレの拡充及びシャワーを設置すること。

【答】砂浜侵食対策の取組は、

県・相模湾沿岸市町長、県議会議員を構成員とする「なぎさづくり促進協議会」で、技術的支援や財政措置の充実を国・国会議員へ要望して、侵食の激しい中海岸地区は、海岸利用関係者を含めた「茅ヶ崎中海岸侵食対策協議会」で検討している。



市は、良品の養浜材の茅ヶ崎漁港西側の堆積砂3000m³を県に提供し、砂浜の回復・保全に取組んでいる。中海岸では汀線の前進が確認されている。柳島海岸や菱沼海岸も、県が維持的な養浜を継続している。

サザンビーチちがさき海水浴場付近のトイレは、水洗仮設トイレを導入し、11基を設置している。海水浴場開設期間中は、30基の仮設簡易トイレを増設し

ている。堅固なトイレ及びシャワーの設置は、A地区(漁港背後地)に公衆トイレ及びシャワー、足洗い場を平成27年6月までに建設する予定である。他に足洗い場のある公園整備を、検討している。

④相模川左岸全区間の護岸は、早期に整備完了を国への働きかけを強化すること。

【答】国は、馬入橋上流から平太夫新田地区既設堤防まで約850mの整備を進めており、用地買収率は約54%である。

築堤整備は、平成25年度には平塚市須賀地区の馬入橋上流、約120m整備、平成26年度は、その上流約80mの築堤工事が行われる予定であり、用地取得・堤防整備を進めていく。

中島地区は、新湘南国道第2期工事と合わせ整備を図る計画だが、津波の遡上や、記録的大雨等による河川氾濫や土石流の発生等の被害から、堤防未整備箇所を早期整備を国に要望している。

茅ヶ崎市、平塚市、寒川町で構成する相模川整備促進協議会で、国等に対し、未整備箇所の整備年度や整備方針の明確化を要望する。

⑤千ノ川は、県管理区域整備促進を県に求めること。飯島橋・北茅ヶ崎橋区間河道拡幅整備を早期実現を図ること。

【答】飯島橋下流学校給食共同調理場付近の護岸拡幅工事を実施した。飯島橋・北茅ヶ崎橋区間の用地買収等を実施した。上ノ田公園雨水調整池（6000トン）、菱沼雨水幹線北側の高田地内・新千ノ川橋ポンプを整備した。公共施設で雨水浸透施設や貯留施設の設置等進めている。雨水貯留タンク設置事業が事業採択され、関係自治会と協議している。

小出川合流点・梅田橋は、県が管理しており、護岸整備工事は完了、堆積土砂の掘削や除草等を実施し、流路確保を図っている。県は、梅田橋・人道橋区間（320m）の、梅田橋から下流169mを実施したが、残り151mの河床掘削を実施する予定である。河川浸水対策や河川環境の改善を県に要望していく。



⑥公共施設で太陽光発電装置、屋上緑化貯水施設等を自然エネルギー・雨水の利用等、自然環境・水循環に配慮した整備を進めること。民間・企業等に環境配慮の促進を働きかけること。

【答】太陽光発電設備は、松浪地区地域集会所、つっし学園に、市役所新庁舎に設置する。既存の施設は大規模修繕の時期等に、設置を検討していく

公共施設整備には、環境や健康に十分配慮し、資源のリサイクルや省エネルギーに対応した材料、機器等を積極的に採用している。ライフサイクルコスト全体を通して、エネルギー消費を抑えた公共施設の再整備を進める。

雨水利用は、新庁舎でも、貯留雨水を屋上緑化部分に散水する設備を設置する。新庁舎一部屋上を緑化する。汐見台小学校教室棟屋上には水田を設置し、省エネルギー化・農業体験にも活用しているが、既存施設は大規模改修時に検討する。

雨水流出抑制及び雨水利用のため、公共施設や小・中学校に雨水貯留タンクを55基設置した。雨水貯留タンク設置補助金を264基のタンクに交付した。

千ノ川流域は、モニター制度による雨水貯留タンク設置を行っており、59基を設置した。雨水を貯留できる土地に、遊水機能土地保全補助金制度を実施している。雨水の想定貯留量は約85000トンである。

企業へは、騒音・振動対策、太陽光発電設備、雨水貯留施設などに固定資産税、都市計画税の軽減措置を設けている。

⑦バイオマスエネルギー導入事例等を研究検証し、導入のビジョンを示すこと。



【答】茅ヶ崎・寒川バイオガス化施設を平成34年度稼働を目途に整備と位置付けている。藤沢市バイオガス化施設の整備を、平成33年度稼働が予定である。しかし、藤沢市では試行収集を行っている、市民アンケート結果で約49%が負担感がある、施設用地確保、運営経費負担増等の課題があり、計画を中止している。この結果を踏まえ、調査研究する。

⑧相模線は、行き違い駅化を実現し、複線化実現を関係機関に働きかけること。北茅ヶ崎駅・香川駅は、安全性確保、整備促進及びバリアフリー化を図ること。

【答】行き違い施設設置・駅舎の橋上化は、リニア開業を睨んだ平成37年までを整備構想スケジュールとしている。複線化を含めた輸送力増強について要望する。

北茅ヶ崎駅整備は、調査設計を進めている。また、現在、「茅ヶ崎市バリアフリー基本構想」の策定作業を進めている。香川駅周辺の整備は、香川駅前通り市道0111号線香川駅南側踏切から自転車駐車場までの暫定歩道整備、香川駅から香川駅北側踏切まで歩道空間確保を完了した。

西口駅前広場整備は、が成立し、着工した。

